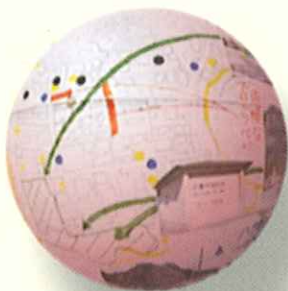


2004年度



小学生の“ぼうさい探検隊” マップコンクール 入選作品集



社団法人 日本損害保険協会



小学生の“ぼうさい探検隊” マップコンクール

ごあいさつ

昨年は、日本のみならず、世界中で多くの自然災害が発生し、多大な被害をもたらしました。史上最多の上陸となりました台風や新潟県中越地震はもとより、年末のスマトラ島沖地震によるインド洋津波の被害等々、不慮の自然災害により被災された多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。

私ども損害保険業界では、災害の発生に対しまして迅速に保険金をお支払いすることで復旧のお役に立つよう努めておりますが、同時に防災対策の大切さを痛感しています。

防災対策は世代を超えて受け継がれるべき財産であり、特に次の世代を担う子どもたちを対象とした防災教育が重要であると認識しています。

さて、私ども日本損害保険協会が推進している「ぼうさい探検隊」は、子どもたちが自分の住んでいるまちを探検して、防災マップをつくる。そして子どもたちをご指導いただく先生、保護者、ボランティアなど地域の方々が支えるという、まさに地域ぐるみの実践的防災教育プログラムです。

本格的な取り組みを始めて1年、初めてのマップコンクールでしたが全国96の小学校から478作品もの応募をいただきました。どれも力作ばかりで作品1つ1つに子どもたちの発見、気づき、思いが込められていました。

子どもたちがこうして真剣に防災を考え、地域と向き合った姿勢は、大人たちにも多くの好影響を与えたと確信しています。地域が一体となって防災について考えるきっかけとなり、また、その時に子どもたちのマップは必ずや役立つことでしょう。

ぼうさい探検隊に参加し、一生懸命マップを作っていた子どもたち、ご指導に当たられた先生方、ご協力いただいたご父兄の方々、ボランティア、地域の皆様にあらためて感謝申し上げます。

この「ぼうさい探検隊」活動が、日本のみならず世界各国で取組まれ、災害に強い安全で安心な社会になっていくことを心より願います。

2005年2月

社団法人 日本損害保険協会
会長 平野 浩志

主 催

小学生の“ぼうさい探検隊”マップコンクール実行委員会
(社団法人 日本損害保険協会／朝日新聞社／ユネスコ／
特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク)

後 援

内閣府／総務省消防庁／文部科学省／警察庁／
全国都道府県教育委員会連合会／アジア防災センター

●表彰式 (2005年1月19日)

国連防災世界会議参画イベント「ぼうさい探検隊フォーラム」の第2部において、ぼうさい探検隊マップコンクール表彰式が神戸市の神戸国際会議場で開かれました。

会場は2階席まで満席となり、マスコミによる取材も目立ちました



文部科学大臣賞を受賞した
埼玉県 不動岡小学校の
岡安優希さん、犬木美恵子先生
左は文部科学省 戸田芳雄体育官



子どもたちからスマトラ島沖
地震の被災者を励ますために
折った千羽鶴をユネスコの
松浦事務局長に手渡しました



▲入選校の代表児童5人にインタビューする司会の柄谷さん



▲励ましのメッセージを書いた
寄せ書きも渡しました



◀宮城県 湊小学校の鑛坂みどりさんへ
日本損害保険協会 平野会長より
ぼうさい探検隊賞が贈呈されました
(右は及川清太郎先生)



ステージ上では、緊張していました ▲

ぼうさい探検隊フォーラム

～防災教育のあり方を考える～

主催 社団法人 日本損害保険協会 朝日新聞社 ユネスコ 特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク
後援 内閣府 総務省消防庁 文部科学省 警察庁 全国都道府県教育委員会連合会 アジア防災センター 兵庫県



表彰式終了後、ステージ上でプレゼンター、室崎審査員長、入選の児童・先生が記念撮影をしました ▲

▼室崎審査員長によるコンクール総評で
表彰式は締めくくられました



▲ロビーに展示された入選作品を熱心に見つめる参加者たち

● 懇親会

表彰式の前日には神戸市内のホテルで、入選校の代表児童、保護者、担当教諭と協会・事務局による懇親会が開かれました。



▲表彰式の司会をしてくださる柄谷さんからスマトラ島沖地震のお話を聞きました



▲バイキング形式の食事はどれもこれもおいしそう！



▲リハーサルも真剣です



▲食事が終わる頃には他校の児童や先生と打ち解けてきました ▲



◀スマトラ島沖地震の被災者のために鶴を一生懸命折りました



▲表彰式でユネスコの松浦事務局長へ手渡す千羽鶴です



▲何を書こうかな？被災地へ励ましのメッセージを書いています

〈本審査会〉

全国の小学校から478作品(96校)もの応募があり、防災教育関係者を含めた厳正なる審査を重ねた結果、本審査会にて入選8作品を決定いたしました。



● 本審査員

審査員長	室崎 益輝 氏	独立行政法人 消防研究所理事長
	戸田 芳雄 氏	文部科学省 スポーツ・青少年局体育官
	丸谷 浩明 氏	内閣府 防災統括官付企画官
	渥美 公秀 氏	大阪大学 大学院助教授
	柄谷 友香 氏	京都大学 大学院助手
	山中 茂樹 氏	朝日新聞大阪本社編集委員
	西浦 英次 氏	社団法人 日本損害保険協会専務理事
		計 7 名

● 審査総括

今回初めて行われたコンクールですが、応募作品のどれもが大変素晴らしく、審査員一同、子どもたちの地域を観察する目に驚きと喜びをもって接しました。

子どもたちの素直でまっすぐな目で作られたマップからは、家族や地域、友達を守る愛情を感じることができました。危険なところと安全なところを探し出すだけでなく、探検し、地域の人たちとの触れ合いを通して、自分たちのまちの良いところを引き出していることにも、とても感心しました。

探検隊となって地域の防災に取り組んだ子どもたち皆に、心から拍手を送ります。

また、教務ご多忙の中で熱心にご指導された先生方、子どもたちの質問などに一生懸命答えてくれた地域の方々、子どもたちが交通事故に遭わないよう、また、マップ作りにも一緒に参加して頂いたボランティアの皆さん、ご苦労様でした。そして有難うございました。

ぼうさい探検隊活動が世界中に広がり、災害に強い子どもたちがたくましく育つ、それがまさに被害のない安全で安心な世界をつくることにつながるのだと確信します。



審査員長 室崎 益輝

● 応募作品の概要及び応募状況

カテゴリー

防災をテーマにしている作品が全体の8割強を占めており、地震に伴う津波・火災、台風・大雨による水害等、学校の立地状況や地域の特色に応じたマップが作成されていた。

地域性

沖縄県からの応募が多かったのは、県警と損害保険協会が合同で行った「地域安全マップづくり事業」によるものと思われる。
愛知県と京都府(京都市)は、地域ぐるみで防災・防犯教育に力を入れていることもあり、多くの学校で「ほうさい探検隊」が行われた。
なお、関西地域からの参加校が多かったのは、阪神・淡路大震災から10年が経ち、その教訓を風化させないという取り組みが熱心だったことによるものと思われる。

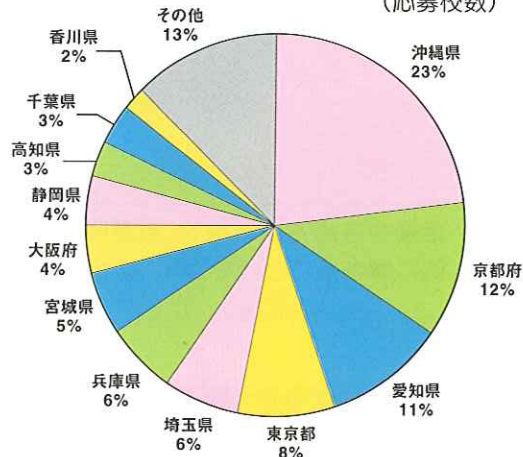
学年別

応募グループを学年別に見ると、4年生が4割、次いで3年生と6年生がそれぞれ2割ずつであった。ちなみに3・4年生は、社会科の「自分の住んでいる町を調査し、地図にまとめる」や、「地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について」の学習等で、また、5・6年生は、児童が自分たちで防災・防犯をテーマに調べ、追究する総合的な学習の時間でマップづくりが行われていた。

・応募数 96校 478作品

都道府県	応募校数	応募作品数	学校名
沖縄県	22	64	石垣市立新川、石垣市立登野城、糸満市立兼城、糸満市立光洋、浦添市立内間、沖縄市立泡瀬、沖縄市立安慶田、北谷町立北谷、宜野湾市立普天間第二、宜野湾市立普天間、具志川市立川崎、具志川市立兼原、本部町立上本部、与那原町立与那原東、勝連町立勝連、嘉手納町立屋良、読谷村立読谷、名護市立大宮、那覇市立開南、那覇市立さつき、那覇市立久茂地、平良市立南
京都府	11	105	京都市立白川、亀岡市立亀岡、京都市立川岡、京都市立第四錦林、京都市立嵐山東、京都市立松尾、京都市立清水、京都市立納所、京都市立砂川、京都市立吉祥院、京都市立藤城
愛知県	10	81	八開村立八輪、安城市立桜井、田原市立赤羽根、阿久比町立南部、武豊町立緑丘、美浜町立布土、豊橋市立吉田方、三好町立南部、足助町立足助、碧南市立中央
東京都	8	38	板橋区立赤塚、板橋区立新河岸、板橋区立高島第二、葛飾区立東金町、品川区立芳水、練馬区立練馬第三、東村山市立富士見、杉並区立松ノ木
埼玉県	6	41	加須市立不動岡、越谷市立北越谷、越谷市立大袋東、草加市立川柳、八潮市立八幡、草加市立高砂
兵庫県	6	24	猪名川町立白金、神戸市立御蔵、神戸市立長田南、神戸市立室内、神戸市立浜山、西宮市立西宮浜
宮城県	5	17	石巻市立湊、仙台市立若林、仙台市立芦口、河南町立北村、気仙沼市立浦島
大阪府	4	16	摂津市立味舌、豊中市立庄内、豊中市立東豊台、枚方市立中宮
静岡県	4	27	静岡市立安東、沼津市立片浜、焼津市立和田、静岡市立南部
高知県	3	15	高知市立浦戸、高知市立大津、高知市立鶴田
千葉県	3	8	千葉市立花見川第四、松戸市立松飛台、東庄町立笹川
香川県	2	6	高松市立亀阜、高松市立香西
神奈川県	1	1	横浜市立神奈川
愛媛県	1	1	久万高原町立明神
徳島県	1	1	阿南市立新野
広島県	1	1	江田島市立切串
岐阜県	1	1	下呂市立総島
青森県	1	3	青森市立篠田
北海道	1	4	札幌市立中央
和歌山県	1	7	美浜町立松原
滋賀県	1	1	大津市立瀬田
島根県	1	14	東出雲町立揖屋
栃木県	1	1	西那須野町立東
アメリカ	1	1	エルパソ日本語補習校
	96	478	

応募状況・都道府県別グラフ
(応募校数)



※その他にアメリカ・エルパソ日本語補習校が含まれます。

文部科学大臣賞

埼玉県加須市立不動岡小学校 おまかせ不動っ子探検隊(4年)



活動報告～犬木 美恵子先生

活動を進めている中で、新潟県中越地震が起こり、子どもたちも自分の問題として、真剣味が増し具体的に調べることができました。

評価されたところ

マップを作成するだけでなく地震についてのミニ知識を調べるなどの工夫点や実施後の感想がわかりやすくまとめられている点が評価された。



避難所である公民館の方にインタビューする子どもたち



おまかせ不動っ子探検隊のみなさん

ぼうさい探検隊活動で想定した災害 **地震**

工夫点

児童が自主的に調べたことが生かされるようにした。

提言

子どもたちは、提言というよりまちの調べを進めるほどに安心感が増した。

子どもたちの感想

- ・いろいろな所を探検して調べることが出来たので楽しかった。
- ・わからなかったこともわかってよかった。
- ・9人で作るのは大変だったけどみんなでがんばったのでやってよかった。 等

〈入選を聞いて〉



「グラグラ～まかせて安心！不動岡」が入賞できて、とてもびっくりしています。そして、みんなで喜んでいます。この勉強をして加須市では、大きな地震に備えてひなん場所や施設などいろいろと準備されていることがわかりました。これからも防災の勉強をしていきたいと思います。

(岡安 優希さん)



「不動岡に大きな地震が来たらどうなるの？」「避難所は？」「火事が起きたら？」「食べ物や水は？」疑問に思うことを一つ一つ調べていきました。子どもたちは、生き生きと楽しそうに活動する中から、改めて不動岡の防災を見直し、いろいろと準備されていることに安心と愛着を持つことができたようです。ありがとうございました。

(犬木 美恵子先生)

防災担当大臣賞

和歌山県美浜町立松原小学校
浜ノ瀬チーム(4・6年)



活動報告～椎崎ひろ子先生

過去の津波の被害や自主防災組織を学び、災害に強いまち、未来のまちについてイメージを膨らませることができました。

評価されたところ

地域を一家族と見て取り組んだ点、自主防災の方に話を聞くなど多くの人から学んだ姿勢が見られる点が評価された。



マップをつくる子どもたち



浜ノ瀬チームのみなさん

ぼうさい探検隊活動で想定した災害 地震・津波

工夫点

- ・自主防災組織の会長さんの話を聞いてマップにいかした。
- ・高齢者を助け合うことが大切なので、高齢者の方が住む家を黄色のシールで記した。
- ・津波災害に備えてより高いところへ逃げるために、浜ノ瀬内で海拔の高さを目立たせた。

提言

- ・夜の災害に備えて誘導灯を避難経路に設置する。
- ・一時避難場所の目印としてソーラーシンボルタワーを作ってほしい。

子どもたちの感想

- ・このマップを作ったことで浜ノ瀬のことがよくわかった。
- ・どの地区よりも高齢者の方が多く住むまちなので、みんなで助け合っていくことが大切だとわかった。
- ・「浜ノ瀬地区は、一つの家族」を合言葉にわたしたちもがんばります。 等

〈入選を聞いて〉



新聞で入選したことを知りました。とってもうれしかったです。意見を出し合って一生けん命に作ったかがあったとみんなとびはねて喜び合いました。ほくはリーダーでした。きちんと役割を果たせたかどうかわかりませんが、みんなと楽しくできてよかったです。このマップ作りの経験を生かしてこれからもいろんなことに挑戦していきたいと思います。(谷 剛志くん)



子どもたちと一緒にまちを歩き、地震や津波などの災害に強いまち探しをしました。いろいろなものを発見するたびに地図に書き込んでいく子どもたち。もっともっと安心して住めるまちになってほしいという願いとともに地図いっぱい調べたこと、考えたことを表現する子どもたち。とっても楽しそうでした。楽しく活動できたこと、そして入選という喜びを子どもたちと共有できたこと、私の大きな財産になりました。本当にありがとうございました。(椎崎 ひろ子先生)

まちのぼうさいキッズ賞

(ユネスコ提供)

京都府京都市立第四錦林小学校 吉田見守り新聞(4年)



活動報告～加藤 君江先生

子どもたちは、自分たちの登下校を100人以上の人が見守ってくれていることを知り、びっくりしていました。同時に地域のあたたかみを感じたようです。

評価されたところ

「自分たちを見守ってくれる人」というテーマ設定も良く、地域を細かく取材した様子が伺える。人とのふれあいや楽しさが感じられる点も評価された。



防災倉庫を調べました



吉田見守り新聞のみなさん

ぼうさい探検隊活動で想定した災害 防犯

工夫点

私たちを見守ってくれる人たちを性別、年代別に分けた。

提言

誰もが無理なく子どもを守れるまちづくり。

子どもたちの感想

- ・こんなに多くの人が見守ってくれているなんて知らなかった。
- ・安全なまちだけれど大人の人たちの工夫がよくわかった。
- ・今まで知らなかった人にもインタビューで話せて良かった。 等

〈入選を聞いて〉



私はこのマップづくりを通していろんなことを学びました。地域の人だけでなく、校長先生も教頭先生もいつも校門に立って見守ってくれている意味がわかりました。わたしはまたこんな新聞を書きたいと思います。これは、私たち4年2組クラス全員でとった賞なのでとってもとっても嬉しかったです。(諸永 あすかさん)



クラスの子どものがんばりを認めてくださり大変嬉しく思っています。現在の世の中、なかなか人と人とが関わりながら子どもたちを見守っていくというのは難しいように思いますが、マップ作りを通し、子どもたちは人と人との関わり大切さを、また一つ経験できたのではないのでしょうか。(加藤 君江先生)

未来へのまちづくり賞

(朝日新聞社賞)

愛知県田原市立赤羽根小学校 赤小ぼうさいキッズ(6年)



活動報告～渡辺 健二先生

校区は、地震防災対策強化地域です。学校で学んだことを保護者に話したことで、家庭での防災意識も高まっていったようです。

評価されたところ

危険なところ、安全なところが地図にしっかりときれいに整理されている点、校区を探検した感想がわかりやすくまとめられている点が評価された。



活動しての感想を話し合う子どもたち



赤小ぼうさいキッズのみなさん

ぼうさい探検隊活動で想定した災害 地震・津波

工夫点

マップの一部分をめくると津波被害がわかる。

提言

- ・安全なブロックべいにするよう呼びかけてほしい。
- ・津波を知らせる防災行政無線が海岸に少ないので増やしてほしい。
- ・避難場所の建物のガラスを強化ガラスにしてほしい。

子どもたちの感想

- ・高台なので津波はこないと思うけど、がけ崩れによる被害が心配です。
- ・通学路の左右がブロックべいになっている危険な場所がたくさんあった。
- ・地震や津波に備えて消防水利、消火ホースなどたくさんあったので安心した。 等

〈入選を聞いて〉



みんなとがんばって調べたり、まとめたりしてよかったです。
これからも命を守るために他の人たちとも防災を呼びかけていきたいです。
(山本 華穂さん)



子どもたちのがんばりが認められ、とても嬉しく思います。
今後も、さらなる疑問、課題解決に向けて、引き続き指導していきたいと思います。
(渡辺 健二先生)

ぼうさい探検隊賞

(日本損害保険協会賞)

宮城県石巻市立湊小学校 はちまんあるある探検隊(6年)

八幡町防災マップ

はちまんあるある探検隊

- 7 井戸
- 2 消火器
- 16 消火栓
- 21 ことし110番の家
- 2 地域防犯連絡所

湊地区備蓄倉庫
湊中学校

非常食
フリーズドライ
9キログラム
がありました。

新潟県中越地震の被災地にこの倉庫から5モホ300枚が送られました。

湊地区八幡町とは
八幡町は石巻市東部湊地区にあり、北上川と西部地区とへだたれています。西部地区とは三本の橋がつながっていますがもし橋が通れなくなると川と海に囲まれた島になってしまい救援物資がトラックで運ばれなくなるおそれがあるので心配です。

八幡町一時避難場所

八幡町の30世帯に聞きました。
Q 災害のとき避難する場所はどこですか?

避難場所	人数	世帯数
みなの辻	76人	9世帯
市民会館	11人	1世帯
湊中学校	5人	1世帯
湊小学校	11人	3世帯
その他	11人	3世帯

人数 5 10 15 20 25 30

阿部 真奈美

伊藤 綾夏 佐木 柚貴 阿部 智 藤原 環 千葉 紗市 車田 拓也 笠原 聡

活動報告～及川 清太郎先生

普段あまり意識することのなかった防災設備の重要性に気が始め、地域に向けて大きく視野を広げていったようです。

評価されたところ

過去の津波災害の状況から地域の特徴を知り、学んでいこうという意欲が感じられる点が評価された。



まちの人にインタビューする子どもたち



はちまんあるある探検隊のみなさん

ぼうさい探検隊活動で想定した災害 地震・火災・津波

工夫点

写真やグラフを用いたり色分けして、見やすく、わかりやすくした。

提言

備蓄倉庫が一つしかないのもっと増やしてほしい。

子どもたちの感想

- ・このマップでいろんな人の命が助かるといいと思う。
- ・私たちが一生懸命作ったマップを見て何かを感じてもらえればうれしい。
- ・ぼうさい探検隊をとおしていろんなことを学びました。これからも災害に気をつけたいです。等

〈入選を聞いて〉



はちまんあるある探検隊のみんなで協力して作った作品だったので、とてもうれしいです。これからは、この地図を生活の中で利用していきたいと思います。(蟻坂 みどりさん)



子どもたちが協力して作った地図が入選し、大変嬉しいです。地域の方たちの協力もいただきました。学校で、そして地域でも活用し、防災、安全に役立てていきたいと思います。(及川 清太郎先生)

審査員特別賞

京都府京都市立白川小学校 白川キッズあんぜんたい(2年)



白川キッズあんぜんたいのみなさん

ほうさい探検隊活動で **交通事故**
想定した災害

工夫点 写真の番号と地図の番号を合わせるところやイラストをいれた。

〈入選を聞いて〉



ほくたちのチームで協力して作った安全マップが賞をもらうなんて思いませんでした。これからも、安全に気をつけてがんばりたいです。(山中 元治くん)

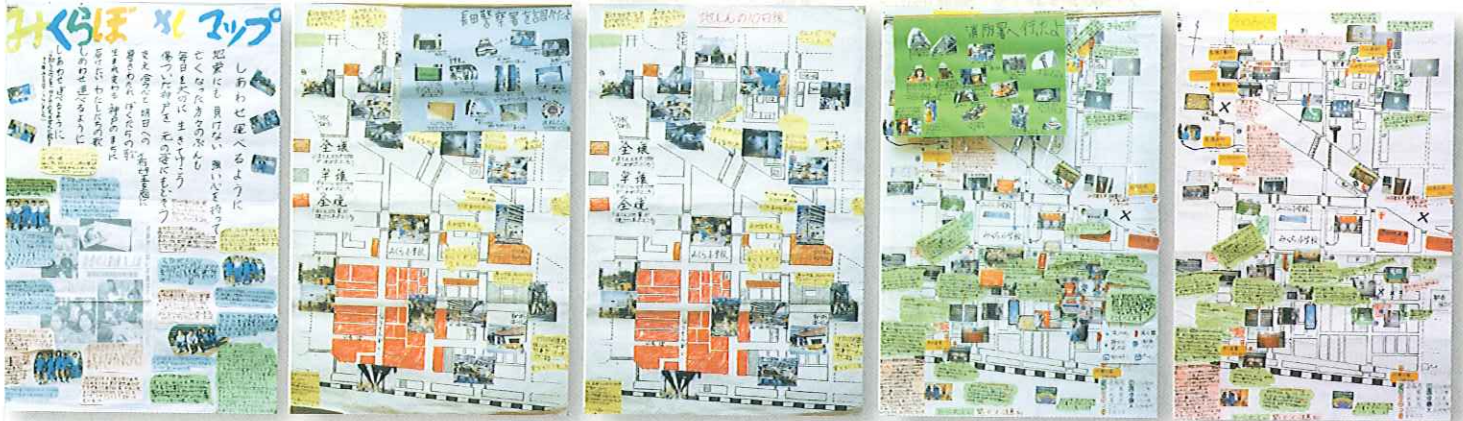
2年生の子どもたちの作品が受賞するとは思いませんでした。子どもの目線での発見には驚きとともに、感心させられました。この受賞をきっかけとして、さらに子どもたちに安全・防災に留意した指導をしていきたいです。(岸本 直樹先生)



岐阜県下呂市立総島小学校 ハッピーチーム(5・6年)



兵庫県神戸市立御蔵小学校 みくらトウエンティ(4年)



ほうさい探検隊活動で想定した災害 **地震・火災**

工夫点 10年前の震災の様子と現在のまちの様子が見開きで見ることができる。火災に関係したことは透明シートで見ることができる。



みくらトウエンティのみなさん

〈入選を聞いて〉



「がんばったかいがあった」というのが、はじめの一言でした。うれしい気持ちでいっぱいです。私たちが作った防災マップが、いろんな人の役に立ってほしいです。(森本 愛里さん)

20人の子どもたちが協力して作り上げたマップが入選し、全員で喜びました。あの震災から10年、復興しつつあるまちを「防災」という視点から見直すことで新しい発見ができ、また、地域の方々との出会いを通して、自分たちのまちに愛着をもつことができました。(三好 典夫先生)



ほうさい探検隊活動で想定した災害 **野生動物からの被害・風水害**

工夫点 まちの人に聞きとりを行い野生動物が出やすい所を確認した。



ハッピーチームのみなさん

〈入選を聞いて〉



入賞のことを聞いて、思わず「やったあ」と飛び上がりました。はじめは馬瀬は安全だと思っていたけど、結構危険なこともわかりました。これからはこのマップにもっといろいろなことを調べ書き込んで大事にしながら生活していきたいです。(二村 崇彦くん)

入賞の報告を子どもたちに伝えると「やったあ」と歓声が沸きあがりました。「道が狭くなっているよ」「さるがでるよ」などの結果を地図に書き込んでいながらようやくマップが完成しました。子どもたちがこの喜びを大切にしながら、防災意識をさらに持ち続けてくれたらと思います。(垣内 康典先生)



会員会社一覧

あいおい損保
朝日火災
共栄火災
ジェイアイ
スミセイ損保
セコム損害保険
セゾン自動車火災
ソニー損保
損保ジャパン
そんぽ24
大同火災
東京海上日動
トア再保険
日新火災
ニッセイ同和損保
日本興亜損保
日本地震
日立キャピタル損保
富士火災
三井住友海上
三井ダイレクト
明治損保
安田ライフ損保

(2005年2月現在)

社団法人 日本損害保険協会

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9
URL <http://www.sonpo.or.jp>

〔お問い合わせ先〕

生活サービス部 NPO・防災グループ

TEL 03-3255-1294 / FAX 03-3255-1236

E-mail npo@sonpo.or.jp

かけがえのない環境と安心を守るために

